

チャンピオンズカップ

良馬場発表の乾いた馬場の際は
勝ち時計が1分50秒以上かかっていたのが以前の馬場。

それが3年前からは50秒を切る馬場に。

良馬場でも以前よりスピードが乗るようになり、
ミスプロ系のトップスピードを強化した配合馬が走るようになりました。

いわば、米国型ミスプロ系が走りやすいアメリカの
ケンタッキーダービーに近い血統が走るようになりました。

過去3年の当レースを2桁人気で馬券になったのは
アナザートウルースとインティの2頭。

昨年14人気で3着のアナザートウルースは
父が米国型ミスプロ系のアイルハヴアナザー。
ケンタッキーダービー馬。

—昨年10人気で3着のインティは父も母父も米国型ミスプロ系。

どちらも2桁馬番の先行馬。
外枠から好位に乗ってスピードを持続させるタイプが
走りやすいレースへと変貌しています。

ノットウルノは母父がアンブライドルズソング。

米国型ミスプロ系のなかでも最高峰の種牡馬。
産駒のアロゲートがブリーダーズカップ、
ペガサスワールド C、ドバイWCを優勝。

コントレイルの母父もアンブライドルズソング。
ブルードメアサイヤーとしても世界屈指のレベル。

父はハーツクライ。
今年もダービー馬ドウデュースを出した芝の G1 血統。
アメリカのダートでも産駒のヨシダが 1800m のウッドワードステークスを優勝。

ジュンライトボルトは父がキングカメハメハ。
母父がサンデーサイレンス系。

2 年連続で連対したチュウワウィザードは
父が欧州型ミスプロ系のキングカメハメハ。
母父はスプリント G1 とマイル G1 を優勝したデュランダル。

ミスプロ系と芝マイル以下のスピード決着に
実績を残す血を強化した配合馬にも向く舞台。

兄グルーヴィットはマイル以下の重賞で好走実績が何度もある馬。

シャマルは母父が米国型ミスプロ系のアグネスデジタル。

フェブラリーS、安田記念、マイル CS と
JRA の古馬混合の芝マイル G1 を完全制覇。

トップスピードと砂適性を兼ね備えた馬。

産駒のアスカノロマンは 16 年の同レースを 10 人気で 3 着。
当時の勝ち時計は 50 秒台。今の馬場のほうがより向く血。

当レースで 2 年連続馬券になった
ゴールドドリームと同じゴールドアリュール系と米国型の配合馬。

テーオーケインズは昨年本命にしたように適性は合います。

少々気になるのは同じく母父マンハッタンカフェで
父がエーピーインディ系のメイショウハリオと同じように
好走凡走を繰り返しやすいタイプであることでしょうか。